令和４年度　研究全体計画

学校教育目標

世界や地域とつながり、未来を切り開く力の育成

研究主題

自ら問いをもつ児童の育成

～フレーム思考を使って対話する授業を通して～

【目指す児童像】
・何度も問いを繰り返し、その答えを更新し続ける児童
・各教科等の学びと自分の生き方を結び付けて考えられる児童

【付けたい資質・能力】
論理的思考力、コミュニケーション力、他者と協働しよりよく生きる力、

【主題設定の理由】
（１）新学習指導要領から
「子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること」が求められている。
（２）昨年度までの児童実態から
本校児童は、フレームリーディングを活用した読解を行ってきたことで学習材を自分なりに読むことができている。自分なりにフレーム（目のつけどころ）を使って課題を解決しようと、友達と話し合いをしながら学習を進めようとする児童が現れ始めている。
一方で、昨年度の本校児童の課題（教師見取）は、対話の内容が深められていないことが挙げられた。児童同士の対話の中で、自分の考えを広げたり深めたりすることができるように指導する必要がある。
また、フレームがあることによって問いをもち深めることができたので、フレームを確実に積み重ねるために、教材や学年をつなぐ指導を継続していくことが必要だと考えられる。

【「自ら問いをもつ児童」とは】
フレームを使って個別の問いをもつ
単元を貫く問いを解決するためにもつ
対話（自己・他者）を通してメタ認知をしたり、単元を貫く問いを解決したりする
単元を貫く問いを設定できるようになる
本質的な問いに目を向けられる
→　国府小学校の目指す「問い」とは
自分の生き方について何度も問い直され、その答えを更新し続けられるような問い

【自ら問いをもつ児童を育成するには】
仮説：フレーム思考を取り入れた授業を行うことで、子供たちは疑問をもち、対話をしながら、課題を発見し、解決方法を考えたり、課題を解決したりすることができると考えられる。そうすれば、自ら問いをもつ児童を育成することができるだろう。

【取り組み】

① フレーム系統表をもとに、どの学習でどのフレームを活用するのか明確にして指導する。→授業後に検証する

② 対話の後に書く活動（振り返り）をもたせる。→授業後に検証する

③ ①②を指導案に表記する。

④ 子供たちに個別の問い（単元を貫く問い、本質的な問い）を設定させる。

⑤ 単元末に問いの有効性を振り返り、一般化する。（できたものを教室掲示、ノートに貼る等）

【検証方法】

・研究の結果は、以下の３点を基に、研究結果の考察を行う。

① フレーム思考を活用する児童の姿の見取り

・それぞれの単元で身につけさせたいフレームは、各学年で検討し、フレーム系統表にまとめる。

・提案授業の際には、実際にフレームを活用していた児童の姿を見とる。

単元名	身につけさせたいフレーム	活用していた児童数	実際の児童の姿
「大造じいさんとガン」		○人	・～していた。 ・
		△人	・…することができていた。 ・

② 対話する児童の姿の見取り

・以下の項目をもとに、対話する児童の姿を見とる。

	低学年	中学年	高学年
話し合うこと	互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。	目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。
読むこと	文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。	文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

・児童の姿を見とる手立てとして、振り返りを書かせる。

そのための手立てとして、以下の視点で振り返りを書かせる。

知・技	何が分かったか。何が変わったのか。（学習内容について）
思・判・表	どのような場面で使えるか、どうすればできたのか。（一般化・学習方法について）
学・人	授業前と後でどのような変化があったか。（自己変容・メタ認知）

③ 児童アンケート（例：高学年児童用）

1	友達と話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて、自分の考えをしっかり伝えている。

2	自分の考えを発表する時には、自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。
3	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいる。
4	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っている。
5	授業は、自分に合った教え方・教材・学習時間になっている。
6	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。
7	友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。
8	学習した内容について、分かった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげている。

※全国学力・学習状況調査質問紙調査「主体的で対話的で深い学び」に関する質問より抜粋

【研究方法】

・PDCA サイクルに基づき、授業実践と理論研修を中心に研究を行う。

・提案授業は次の流れで行う。

P 指導案検討→D 授業参観→C 事後協議→A 課題を踏まえて次回の提案授業へ。

・提案授業の協議の視点

〇フレーム思考を活用することができている児童は何人いたのか。

→フレームを活用するために、どのような指導・手立てをしたのか。(授業者)

→フレームを活用できていたとすれば、どのような要因が考えられるか。(参観者)

〇対話で学びの質を深めることができている児童は何人いたのか。

→対話で学びの質を深めるために、どのような指導・手立てをしたのか。(授業者)

→対話で学びの質を深めていたとすれば、どのような要因が考えられるか。(参観者)

【研修計画】　※日程については、別紙参照

１学期	６月	校内研修 ・１クラス授業公開→事後協議→講演 ※青木伸生先生 招聘
	８月	２月公開研に向けた指導案検討 ※青木伸生先生 招聘
２学期	９～１２月	授業研 ・６月、２月に授業公開をしない学級は、２学期に授業公開をする
３学期	２月	公開研究会 ・１、２、３、４、５、６年、特支から１学級ずつ授業公開→事後協議→講演 ・オンラインではなく、参加型の予定（令和４年２月現在） ※青木伸生先生 招聘